

ALESIS[®]

RECITAL PRO

ユーザーガイド

安全にお使いいただくために

この取扱説明書で使用している危険防止のマーク

-  このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。
-  このマークは、適切な電圧で機器を使用しないと、感電の恐れがあるという警告です。
-  このマークは、ご利用の出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

製品をご使用の際は、使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を読んでください。
 2. 注意事項を守ってください。
 3. すべての警告に従ってください。
 4. すべての注意事項に従ってください。
 5. 水の近くで使用しないでください。
 6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。
液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
 7. 取扱説明書に従って設置してください。
 8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むその他の音楽機器など、熱を生じる機器の近くには、置かないでください。
 9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
 10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
 11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
 12. 音響機器専用の台車、スタンド、ブラケット、テーブルに載せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
 13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
 14. 修理やアフター・サービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
 15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でご利用ください。
 16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカーで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
 17. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
 18. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。
- [WEB] <http://alesis.jp/>

ALESIS

<お問い合わせ>

カスタマー・サポート部

〒106-0047 東京都港区南麻布3-19-23
オーク南麻布ビルディング6階
alesis.jp/support/

ユーザーガイド

はじめに

同梱品

Recital Pro（本体）

AC アダプター

ユーザーガイド/ 保証書

譜面立て

サポート

本製品の最新情報（システム要件や互換性など）につきましては、製品ページをご覧ください。

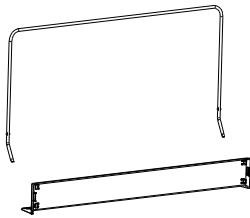
<http://alesis.jp/>

Alesis 製品のサポートにつきましては、以下のページをご覧ください。

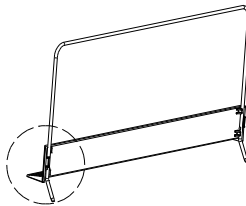
<http://alesis.jp/support/>

セットアップ

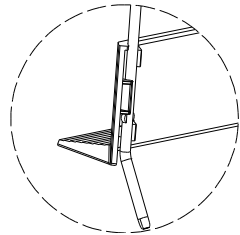
譜面立て:



ステップ 1



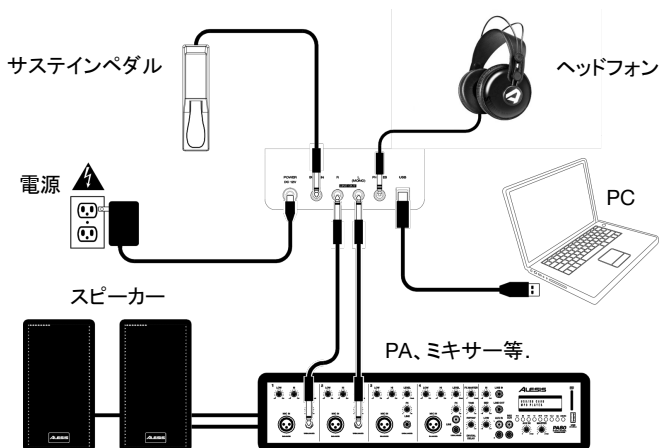
ステップ 2



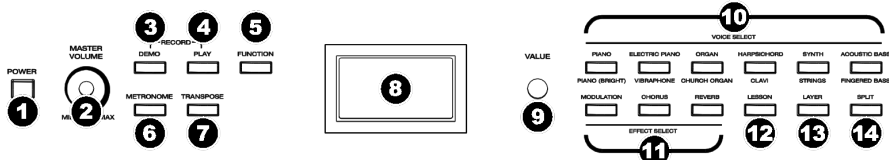
拡大図

接続例

はじめに > 同梱品リスト に記載がないものはすべて別売品です。.



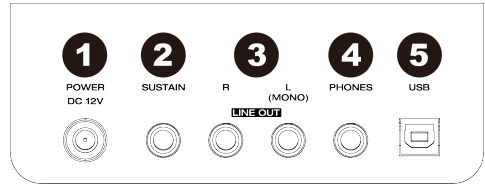
トップパネル



1. **電源スイッチ**：電源のオンとオフを切り替えます。電力節約のため、使用していない状態が30分続くと自動的に電源がオフになります。
2. **マスターボリュームノブ**：**LINE** 出力とヘッドホン出力のマスターボリュームを調節します。
注：内蔵スピーカーから音が出力されない場合、マスターボリュームノブの設定位置が低すぎないか、またはヘッドホン出力にヘッドホンが接続されていないかを確認してください。ヘッドホンが接続されている場合、スピーカーはミュートされます。
3. **デモボタン**：このボタンを押して、デモソングの再生または停止を行います。**デモボタン**と**プレイボタン**を同時に押すと、録音モードに入ります。
4. **プレイボタン**：このボタンを押して、ユーザが録音した曲の再生または停止を行います。**プレイボタン**と**デモボタン**を同時に押すと、録音モードに入ります。
5. **ファンクションボタン**：このボタンを押すと、様々な設定の編集を行えるファンクションモードに入ります。
6. **メトロノームボタン**：このボタンを押して、メトロノームのオンとオフを切り替えます。
7. **トランスポートボタン**：このボタンを押して、トランスポート設定の編集を行います。
8. **ディスプレイ**：このディスプレイにRecital Proのメニュー、パラメータ及び設定を表示します。
9. **VALUEダイヤル**：このダイヤルを使用して、メニューをナビゲートしたり、**ディスプレイ**のパラメータ値を変更します。
10. **ボイス・セレクトボタン**：これらのボタンの一つを押して、プリセットの音色を選択します。詳細は、[操作 > 音色](#)を参照してください。
11. **エフェクト・セレクトボタン**：これらのボタンを押して、モジュレーション、コーラス、リバーブのエフェクトのオンとオフを切り替えます。詳細は、[操作 > エフェクト](#)を参照してください。
12. **レッスンボタン**：このボタンを押して、レッスンモードのオンとオフを切り替えます。
13. **レイヤーボタン**：このボタンを押して、レイヤーモードのオンとオフを切り替えます。
14. **スプリットボタン**：このボタンを押して、スプリットモードのオンとオフを切り替えます。

リアパネル

1. **電源コネクタ**：付属の電源ケーブルをこの端子に接続します。
2. **サスティンペダル入力**：標準（6.35mm、1/4 インチ）のサスティンペダルを接続します。
3. **LINE 出力**：アンプやミキサー、レコーダーなどの外部オーディオ機器を接続します。ステレオ出力では **L** と **R** を、モノ出力では **L** を使用します。
4. **ヘッドホン出力**：標準的な 1/4 インチ（6.35mm）ステレオヘッドホン（TRS ケーブル）を接続します。ヘッドホンが接続されている場合、内蔵スピーカーは自動的にオフとなり、ヘッドホンのみ出力されます。
5. **USB ポート**：PC に MIDI データを転送することができます。



操作

クイックスタート

デモ曲の再生

Recital Pro デジタルピアノは、10 曲のデモソングを内蔵しています。

- ショパン：幻想即興曲 嬰八短調 Op.66
- ショパン：エチュード Op.25-1
- ショパン：ポロネーズ第 6 番変イ長調 Op.53（英雄）
- モーツァルト：ソナタ 第 16 番八長調
- バッハ：トッカータとフーガニ短調
- バッハ：プレリュードとフーガ 第 30 番ニ短調
- バッハ：プレリュードとフーガ 第 1 番八長調
- バッハ：メヌエット ヘ長調
- チャイコフスキー：くるみ割り人形より「箏笛の踊り」
- メンデルスゾーン：結婚行進曲

デモ曲を再生するには：

1. **デモボタン**を押します。
2. **バリュウダイヤル**を回してデモ曲を選択します。デモ曲は連続してループ再生されます。再生中は**デモボタン**の LED ライトが点滅します。
3. デモモードを終了するには、もう一度**デモボタン**を押します。

ボイスデモの再生

パネル上の各**ボイスボタン**にはボイスデモがプリセットされています。ボイスデモを再生するには、**デモボタン**を押しながら、いずれかの**ボイスボタン**を押してください。

音色

Recital Pro デジタルピアノは 12 の音色を内蔵しています。6 つの**ボイスボタン**には、それぞれオリジナルとバリエーションの音色が内蔵されています。

- **ピアノ / ピアノ（ブライト）**
- **電子ピアノ / ピブラフォン**
- **オルガン / チャーチオルガン**
- **ハープシコード / クラヴィ**
- **シンセ / スtringス**
- **アコースティック・ベース / フィンガーベース**

音色を選択して演奏するには：

1. 演奏する**ボイスボタン**を押します。対応する LED ライトが点灯します。
2. 鍵盤を弾いて音色を確認します。

注 1：**ボイスボタン**を繰り返し押すと、オリジナルとバリエーションの音色が切り替わります。選択した音色に対応する LED ライトが点灯します。

注 2：オリジナルボイスを選択中に他の**ボイスボタン**を押すと、選択した音色もオリジナルボイスが選択されます。バリエーションボイスを選択中に他の**ボイスボタン**を押すと、選択した音色もバリエーションボイスが選択されます。

レイヤーモード

レイヤーモードは、2つの異なる音色を重ねて、より豊かで厚みのあるサウンドを演出します。

レイヤーモードを有効化するには：

1. **ボイスボタン**の1つを押して最初の音色を選択します。
2. **レイヤーボタン**を押してレイヤー・モードに入ります。レイヤーボタンのLEDライトが点灯します。
3. **レイヤーボタン**を押しながら、2つ目の音色として使用する**ボイスボタン**を選択します。選択したボイスボタンのLEDライトが点灯し、ディスプレイの**R2**インジケーターに、2つ目の音色名が表示されます。
4. 鍵盤を弾いて、2つの音色が重なり合っていることを確認してください。

レイヤーモードを無効にするには、もう一度**レイヤーボタン**を押します。

注1：レイヤーモードでは、最初に選択したボイスがアッパーに、2つ目に選択したボイスがロワーに設定されます。

注2：アッパーとロワーの音量調節については、**音色の音量**を参照してください。

スプリットモード

スプリットモードでは88鍵を2つのゾーンに分割し、2つの異なる音色をアサインして演奏することができます。例えば、右手でピアノの音色を、左手でベースの音色を演奏することができます。スプリットモードを有効にすると、左手の音色はスプリットボイスとして扱われます。

スプリットモードを有効にするには：

1. 右手側に設定する音色を選択します。
2. **スプリットボタン**を押してスプリットモードに入ります。スプリットボタンのLEDライトが点灯します。
3. **スプリットボタン**を押しながら**ボイスボタン**を押して、左手側に設定する音色を選択します。対応するLEDライトが点灯し、ディスプレイの**L**インジケーターに、音色名が表示されます。
4. 鍵盤を弾いて、左右異なる音色が設定されていることを確認します。

スプリットモードを無効にするには、もう一度**スプリットボタン**を押します。スプリットモードがオフになると、スプリットボタンのLEDライトは消灯します。

鍵盤を左右に分けるスプリットポイントを設定するには、下記の手順を行います。

1. **ファンクションボタン**を押してファンクションモードに入り、**バリュースダイヤル**を回して**SPLIT POINT**を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応するメニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリュースダイヤル**を回して**1**から**88**の値を設定するか、スプリットポイントとなる鍵盤を押します。
4. 操作が7秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

注1：スプリットモードとレイヤーモードを同時に使用している場合、右手側のゾーンにレイヤーされた2つの音色が設定され、左手側のゾーンにスプリットされた音色が設定されます。

注2：スプリットボイスの音量調節については、**音色の音量**を参照してください。

音色の音量

レイヤーとスプリットモードでの音色の音量を調節するには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリューダイヤル**を回して**アッパーボリューム**または**ロワーボリューム**（レイヤーモードの音量設定の場合）、または**スプリットボリューム**（スプリットモードの音量設定の場合）を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応するメニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回して、音色の音量を **000-127** の間で設定します。
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

タッチ感度

Recital Pro のデジタルピアノには、アコースティックピアノのように、鍵盤を弾く強さによって音量をコントロールするタッチレスポンス機能が装備されています。鍵盤を強く弾くほど、音量は大きくなります。この機能をオフにすると、鍵盤を弾く強さに関係なく、固定の音量で出力されます。

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリューダイヤル**を回して、TOUCH を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回して、タッチレベルを選択します：操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。
 - ・ Off：固定ヴェロシティ
 - ・ 1：ソフト
 - ・ 2：ミディアム
 - ・ 3：ハード
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

トランスポーズ

この機能を使うと、音程を半音単位で最大 1 オクターブ上下に移調することができます。

移調するには：

1. **トランスポーズボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
2. **バリューダイヤル**を回して、移調する値を設定します。
3. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

メトロノーム

メトロノームは正確なテンポで練習するときに役立つ機能です。**メトロノームボタン**を押して、メトロノームのオンとオフを切り替えます。メトロノームを使用している時は、**メトロノームボタン**のLEDライトが現在のテンポで点滅します。メトロノームのテンポは毎分 30-280 の範囲で自由に調節できます。

注：デモ曲再生中はメトロノームを使用できません。

メトロノームのテンポを設定するには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリューダイヤル**を回して TEMPO を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回して、**30-280** の範囲で設定します。
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

メトロノームの拍子を設定するには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリューダイヤル**を回して METRO SIG を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回して、拍子を **0、2-9** の範囲で設定します。
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

メトロノームの音量を調節するには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリューダイヤル**を回して METRO VOLUME を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回して、メトロノームの音量を **000-127** の範囲で設定します。
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

録音モード

Recital Pro は、1 つのユーザーソングを内蔵メモリーに録音できます。

曲を録音するには：

1. **デモボタン**と**プレイボタン**を同時に押して、レコーディング・スタンバイモードに入ります。両方のボタンの LED ライトが点灯します。
2. 鍵盤を弾いて録音を開始します。両方のボタンの LED は点灯したままの状態です。
3. もう一度**デモボタン**と**プレイボタン**を同時に押して、録音を停止します。両方のボタンの LED ライトは消灯します。録音中に内蔵メモリの容量が一杯になると、録音は自動的に停止し保存されます。**ディスプレイ**には、**MEMORY FULL** と表示されます。

ユーザーが録音した曲を再生するには、録音が停止中に**プレイボタン**を押します。プレイボタンの LED ライトが点滅します。ユーザーソングにデータがない場合は、**ディスプレイ**に **MEMORY EMPTY** と表示されます。

注 1：新しい曲を録音すると、既存のデータは上書きされます。

注 2：ユーザーソングの消去方法については、**初期化設定** を参照してください。

エフェクト

リバーブ

サウンドに調整可能なリバーブ（残響音）エフェクトを加えることができます。

リバーブを加えるには：

1. **リバーブボタン**を押してリバーブエフェクトをオンにします。リバーブボタンの LED ライトが点灯します。
2. もう一度**リバーブボタン**を押して、リバーブエフェクトをオフにします。

リバーブの種類を変更するには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリューダイヤル**を回して RIVERB TYPE を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回して、リバーブの種類を選択します：
 - ・ Hall 1
 - ・ Hall 2
 - ・ Room 1
 - ・ Room 2
 - ・ Room 3
 - ・ Stage 1
 - ・ Stage 2
 - ・ Plate
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

リバーブの量を変更するには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリューダイヤル**を回して REVERB DEPTH を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回して、リバーブの量を **000-127** の範囲で調節します。
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

コーラス

サウンドに調整可能なコーラスエフェクトを加えることができます。

コーラスを有効化するには：

1. **コーラスボタン**を押して、コーラスをオンにします。コーラスボタンの LED ライトが点灯します。
2. もう一度**コーラスボタン**を押して、コーラスエフェクトをオフにします。

コーラスの種類を変更するには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリューダイヤル**を回して CHORUS TYPE を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。

3. バリュースダイヤルを回して、コーラスタイプを選択します：

- ・ Chorus 1
- ・ Chorus 2
- ・ Chorus 3
- ・ Chorus 4
- ・ Celeste 1
- ・ Celeste 2
- ・ Celeste 3
- ・ Celeste 4

4. 操作が7秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

コーラスの量を変更するには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリュースダイヤル**を回して CHORUS DEPTH を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリュースダイヤル**を回して、コーラスの量を **000-127** の範囲で調節します。
4. 操作が7秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

モジュレーション

サウンドに調整可能なモジュレーションエフェクトを加えることができます。

モジュレーションを有効化するには：

1. **モジュレーションボタン**を押して、モジュレーションエフェクトをオンにします。モジュレーションボタンの LED ライトが点灯します。
2. もう一度**モジュレーションボタン**を押すと、モジュレーションエフェクトをオフにします。

それぞれの音色には、あらかじめ設定されたモジュレーションエフェクトが組み合わされています。

- **Piano**：トレモロ
- **Electric Piano**：ビブラート（デプスは **000-127** の範囲で調整可能）
- **Organ**：ロータリー（サステインペダルで**速／遅**を選択可）
- **Harpichord**：ハーブシコード：ビブラート（デプスは **000-127** の範囲で調整可能）
- **Synth**：トレモロ
- **Acoustic Bass**：ビブラート（デプスは **000-127** の範囲で調整可能）
- **Piano (Bright)**：トレモロ
- **Vibraphone**：ロータリー（サステインペダルで**速／遅**をコントロール可能）
- **Church Organ**：ロータリー（サステインペダルで**速／遅**をコントロール可能）
- **Clavi**：ビブラート（デプスは **000-127** の範囲で調整可能）
- **Strings: Tremolo**：トレモロ
- **Fingered Bass**：ビブラート（デプスは **000-127** の範囲で調整可能）

ビブラートの量を変更するには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリューダイヤル**を回して VIBRATO DEPTH を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を再度押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回してビブラートの量を **000-127** の範囲で調節します。
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

ロータリーのスピードを設定するには：

1. ファンクションボタンを押してファンクション・モードに入り、バリューダイヤルを回して ROTARY SPEED を選択します。
2. もう一度ファンクションボタンを再度押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回してロータリースピードを変更します：
 - ・ **PEDAL**：ロータリースピードはサスティンペダルでコントロールします。ペダルを踏み込むとロータリースピードが速くなり、ペダルを離すとロータリースピードが遅くなります。
 - ・ **SLOW**：ロータリースピードが遅く設定されています。
 - ・ **FAST**：ロータリースピードが速く設定されています。

注：ロータリースピードの設定が **PEDAL** に設定されている場合、サスティンペダルを使用してサウンドを持続させることはできません。ロータリースピードの設定が **SLOW** または **FAST** に設定されている場合、サスティンペダルを使用してサウンドを持続させることができます。

4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

EQ (イコライザー)

EQ 機能は異なる周波数帯域のゲイン調整を行います。

EQ の種類を変更するには：

1. ファンクションボタンを押してファンクション・モードに入り、バリューダイヤルを回して EQ TYPE を選択します。
2. もう一度ファンクションボタンを押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回して、EQ の種類を選択します。
 - ・ Standard
 - ・ Modern
 - ・ Rock
 - ・ Classic
 - ・ Jazz
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

ペダル・レゾナンス

ペダル・レゾナンスは、実際のピアノでサスティンペダルを踏んだときの音の残響効果をシュミレートした機能です。ペダル・レゾナンスを有効にした状態でサスティンペダル（別売）を使用すると、Recital Pro は実際のピアノのように豊かなハーモニクスを生み出し、より豊かな演奏表現が可能になります。

ペダルレゾナンスのオンとオフを切り替えるには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクション・モードに入り、**バリューダイヤル**を回して **RESONANCE** を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回して、**RESONANCE** のオンとオフを切り替えます。
4. 操作が7秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

注 1：ペダルレゾナンスがオンの場合、コーラスエフェクトは自動的に無効になります。

注 2：曲の再生中にペダルレゾナンスのオン／オフを切り替えると、楽曲が少しの間停止する場合があります。

レッスンモード

レッスンモードでは鍵盤を左右に分けて、同時に同じ音域や音色を演奏することができます。これにより二人並んで演奏することができるので、例えば先生と生徒が入れ替わりながらピアノを演奏する必要はありません。より効率的にピアノのレッスンを行えます。

注 1：レッスンモードでは、レイヤーとスプリットモードは自動的に無効になります。

注 2：デモ曲の再生中は、レッスンモードを選択できません。レッスンモードのオン／オフを切り替えるには、**レッスンボタン**を押します。

レッスンモードで左右のゾーンの音色を選択するには、ボイスボタンの一つを押します。

レッスン・モードでオクターブを変更したい時は：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクションモードに入り、**バリューダイヤル**を回して **SPLIT POINT** を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回して、値を **28-64** の範囲で設定するか、もしくは **C3-C6** の間の分けたい位置で鍵盤を押します。初期設定は **E3** に設定されています。
4. 操作が7秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

レッスン・モードでオクターブを変更したい時は：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクションモードに入り、**バリューダイヤル**を回して **LESSON OCTAVE** を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリューダイヤル**を回してオクターブの値を変更します。
4. 操作が7秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

MIDI 出力チャンネル

USB MIDI 出力端子の MIDI チャンネルを変更するには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクションモードに入り、**バリュースライダー**を回して **MIDI CHANNEL** を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリュースライダー**を回して、MIDI チャンネルを **01-16** の範囲で選択します。
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

ローカル MIDI

ローカル MIDI 機能がオフの場合、鍵盤は内蔵サウンドエンジンから切り離された状態となり、鍵盤を弾いても音が出力されません。Recital Pro を使用して、外部 MIDI デバイスや MIDI シーケンサーソフトウェアを演奏する場合は、ローカル MIDI 機能をオフにしてください。

ローカル MIDI 機能を有効または無効にするには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクションモードに入り、**バリュースライダー**を回して **LOCAL MIDI** を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリュースライダー**を回して、ローカル MIDI のオンとオフを切り替えます。
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

オートパワーオフ

電力消費を防ぐため、30 分間操作が行われないと自動的に電源が切れます。

オートパワーオフ機能を有効または無効にするには：

1. **ファンクションボタン**を押してファンクションモードに入り、**バリュースライダー**を回して **AUTO POWEROFF** を選択します。
2. もう一度**ファンクションボタン**を押して、対応する編集メニューに入ります。パラメータが点滅し、編集可能な状態であることを示します。
3. **バリュースライダー**を回して、オートパワーオフのオンとオフを切り替えます。
4. 操作が 7 秒間行われないと、**ディスプレイ**はメインスクリーンに戻ります。

初期化設定

ユーザーソングを削除して初期設定に戻すには、Recital Pro の起動中に**デモ**と**プレイボタン**を押し続けます。これにより、すべてのソングデータが削除されます。

Recital Pro を工場出荷時の状態に初期化するには、起動中に**メトロノーム**と**トランスポートボタン**を押し続けます。初期化すると次のデータがすべて消去され、購入時の設定に戻ります：リバーブの種類と量、コーラスの種類と量、EQ の種類、ビブラートの量、ロータリースピード、メトロノームのテンポ、メトロノームの拍子、メトロノーム音量、アッパー音量、ロー音量、スプリット音量、スプリットポイント、MIDI チャンネル、タッチセンス、オートパワーオフ

注：初期化を行うとすべてのユーザーデータが消去されます。消去されたデータを復元することはできません。

トラブルシューティング

症状	解決方法
電源をオンまたはオフした時に、スピーカーからポップノイズが発生する。	仕様のため異常ではありません。
鍵盤を弾いてもスピーカーから音が出ない。	マスターボリューム・ノブの設定位置が低すぎないか、または ヘッドホン出力 にヘッドホンが接続されていないかを確認してください。 ヘッドホン が接続されている場合、スピーカーはミュートされます。
マスターボリューム・ノブ を最大に設定しても、スピーカーからの出力が小さい。	ファンクションメニューの VOICE VOLUME から、音量を確認してください。問題が解消しない場合は、本機を起動中に メトロノーム と トランスポーズボタン を同時に押して、初期化してください。
スピーカーから雑音出力される。	Recital Pro の近くで携帯電話を使用すると、ノイズが発生する場合があります。携帯電話の電源をオフにするか、離れた場所に置いてください。
特定の鍵盤が発する音の高さがおかしい。	トランスポーズの値が0になっていることを確認してください。問題が解消しない場合は、本機を起動中に メトロノーム と トランスポーズボタン を同時に押して、初期化してください。

付録

技術仕様

鍵盤	88 鍵 ハンマー・アクション鍵盤
最大同時発音数	128 音
音色数	12
デモ曲数	ピアノ デモ曲 10 曲 サウンド（音色）デモ曲 12 曲
メトロノームテンポ・レンジ	30-280 BPM
スピーカー	10W ウーファー ×2 20W ツィーター ×2
コネクタ	1/4 インチ (6.35mm) TRS ライン出力 ×2 1/4 インチ (6.35mm) TRS ヘッドホン出力 ×1 1/4 インチ (6.35mm) TRS サスティンペダル入力 ×1 USB ポート (タイプ B) ×1 電源アダプタ入力 ×1
電源	12V DC、2A (センタープラス)
サイズ (横×縦×高さ)	約 131 x 35 x 14 cm
重量	11.8kg

仕様は予告なく変更になる場合がございます。

商標及びライセンス

Alesis は、InMusic Brands, Inc., の商標で、米国およびその他の国々で登録されています。その他すべての製品名あるいは会社名、商標や登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

alesis.jp